

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a	◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「総合数理学部 2016年度 教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(165頁)及び「2016年度総合数理学部便覧」(9頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ② 学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。				
<b>(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a	◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「総合数理学部 2016年度 教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、毎年度初回の教授会で承認しており、本学部教職員に周知されている。 学生については、学部便覧に掲載し、さらにガイダンスや学科ごとのオリエンテーションにて周知している。また、全学部生の必修科目として開講している「総合数理概論Ⅰ・Ⅱ」において、現代技術の背景にある数理学・情報技術の役割をテーマとして各学科教員がオムニバス形式で授業を実施し、理念の浸透を図っている。 ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。なお、理念・目的をより分かりやすく伝えるため、学部紹介動画や教員の研究テーマに関連するコラムをWEBサイトに掲載している。また、2015年度は企業向けのパンフレットを作成し、学部の理念・目的の周知を図った。				
b	●「人材養成の目的の認知状況を確認していること」 【約200字】	2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」によると、総合数理学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は76%である。全学の中でも高い比率であり、おおむね理解されている。理念を知ることとなった機会や媒体については、ガイドブックやWEBサイトという回答が52%と最も高かった。	アンケート結果によると理念の認知度が高い。「社会に貢献する数理学の創造・展開・発信」という理念がおおむね理解されていることがうかがえる。		ガイドブックやWEBサイトといった広報媒体を主に、学部の理念をわかりやすく伝える工夫を図る。WEBサイト掲載コラム「数理のチカラ」などを始め、今は教員の研究テーマを題材にしている広報が多いが、今後は一期生の卒業後の姿を通して、「数理学と情報技術の社会へのかかわり」を捉えるなどの試みも考えられる。	

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	① 総合数理学部の理念・目的は、開設前年の2012年度に、社会における人材需要の動向及び学生確保の見通しを踏まえ定められた。完成年度となる2016年度までは、設置計画を履行し、掲げた理念・目的を実現する過程にあることから、変更の必要性についての検討は行っていない。なお、学部の教育・研究方針を教授会員で改めて共有することを目的として、2016年4月14日開催の教授会において確認を行った。 ② 今後「人材養成その他の教育研究上の目的」は、年度計画策定時に合わせて、学部執行部が検証し、改正が必要な場合には、学部教授会で審議承認する。		完成年度をむかえ、1期生を社会に送り出した後、理念・目的の検証をする機会を執行部会議において設ける。		学部執行部及び将来構想委員会において、長中期計画を策定するとともに、理念の検証・修正を行う。 大学院との接続や中野キャンパス及び学部の将来構想を踏まえ、理念・目的の検証・修正を行う。 第2期整備計画を要望し、学部の教育研究を充実させ、理念の実現を図る。

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「総合数理学部 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(167頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「総合数理学部 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(167頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ③ 学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。					
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用・昇格に関しては、明治大学教員任用規程等の大学の定める規定に則り、学部で定めた「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」および「総合数理学部における助手の任用及び制度の運用等に関する内規」により明確に規定している。 ② 内規には、任用審査の指針を第2条に、資格について第8条から16条に明記している。					
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	教育研究事項にかかわる全ての意思決定は、専任教員が構成員となっている学部教授会において行う。その他に、学部内の管理運営を円滑に行うことを目的として、執行部会議、学科会議を設けている。本学部は研究対象学問分野に基づき3学科により組織を編制しているが、学科会議には専門科目を主たる担当とする専任教員以外に、総合教育科目等を担当する専任教員が参加し、連携を図っている。各学科の教学委員は、学科長と十分連絡をとり、学科長の下で教学関係調整事項における合意形成をとる形態をとっている。また、各種検討事項を扱う常設委員会を設置し、学部の教育研究事項に関する事項について、検討を行っている。各委員会で検討されたことは、学科会議、執行部会議を経て、学部長が議長を務める教授会で審議し、最終決定することとしており、責任体制は明確である。					
<b>(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>						
<b>教員の編制方針に沿った教員組織の整備</b>						
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】 ※ 現在数とは、2016年5月1日現在の数値です。	大学設置基準上の必要教員数は、現象数理学科8名、先端メディアサイエンス学科9名、ネットワークデザイン学科14名であり、これに対して、14名、16名、16名が在籍し、基準を充足している。  大学設置基準上の必要教授数は、現象数理学科4名、先端メディアサイエンス学科5名、ネットワークデザイン学科7名であり、これに対して6名、7名、7名が在籍し、基準を充足している。	今後、先端的・先導的な役割を担うことが期待される30歳代の教員が多い。文部科学省・科学技術振興機構「COI STREAM」への採択や、多くの教員が構成メンバーとなっている現象数理学研究拠点の「共同利用・共同研究拠点」への認定など、社会に貢献する先端研究の実現に向けた取り組みが行われている。		先端研究の推進を今後も進めていく。 具体的には、2017年度以降の私立大学戦略的研究基盤形成事業への応募に向けて検討を行うと共に、将来構想委員会において、産学連携や研究広報の強化を目指し、MITメディア・ラボのような先端的研究スペースの設置に向けた検討を行う。		

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
		専任教員一人当たりの学生数は、学生現員を基礎として27名、収容定員を基礎として22.6名である。					
b	◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	教員組織の編制実態について、2016年度の担当授業時間数の平均は資格別で教授16.4時間、准教授14.3時間、講師11.4時間となっており、全学部平均よりもその値は高い。		担当授業時間数及び開設科目総数に占める専任教員比率が高い。学部教育に対して十分な責任をもっていると解釈できるが、研究時間の確保や教育の質の維持の観点から、値の適切性について検討が必要である。学部の教員に占める執行部の割合や委員会の数が多く、過度な負担になっている。学部規模及び学際的な学問領域であることを鑑みると、教員数の増加が望まれる。女性教員数が少なく、優秀な若手女性研究者育成の仕組みが必要である。		先端研究の一端を担う若手研究者の育成及び学部教育の質向上を目的として、助教の任用(特に女性助教枠)を計画・要望する。教育のグローバル化に対応する教員組織のあり方を検討する。	将来構想委員会において、中長期計画の策定と共に重点化する教育研究分野についても検討を行う。検討結果を元に、学部執行部において、専任教員の任用を計画、要望する。
		2016年度の学部開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率(専兼比率)は、開講科目の77%を専任教員が、23%を兼任教員が担当している。特に、必修科目は専任教員担当比率が高く、総合教育科目において兼任講師による多様な講義が行われている。					
		任期付き専任教員を4名(教授1名、准教授1名、講師2名)、また、客員教員を3名(教授2名、特別招聘教授1名)任用している。客員教員のうち2名は企業役員歴任者である。「コンテンツ・エンタテインメント産業論」や「ネットワークデザイン特別講義A」といった、産業界におけるこれからのビジネスモデル等を扱う科目を担当し、職務経験を生かした教育を行っている。					
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>							
c	●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	本学部は、学部設置の理念・趣旨に基づき、2012年に専任教員の任用計画を策定した。完成年度までは、任用計画に基づき、教員組織を整備していく過程にあるが、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格の検証を、学科会議、執行部会議及び教授会で行うこととしている。2015年度は、退任に伴う補充(現象数理学科特任教員1名、ネットワークデザイン学科専任教授1名)を行った。					
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>							
a	●<規定に沿った教員人事の実施>教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	任用及び昇格は、大学で定める諸規程を踏まえて、「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」に従って適切に運用している。なお、本学部は開設前年の2012年度に、完成年度までの専任教員(特任教員を除く)の任用を決定している。2015年度は、専任教授1名、特任教員1名を任用し、専任教員3名(准教授から教授1名、講師から准教授2名)の昇格を行った。					

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 研究活動の業績評価に関わる事項として、2015年度から研究報告書の発行を行った。研究報告書には、学部主管予算から投稿料等の補助を受けた論文及び各専任教員の業績（著書・論文、学会発表及び研究課題）を一覧で掲載している。投稿料等の補助は、研究促進の一環として取り組み始めたもので、2015年度は8件の申請があった。研究に関わる事項を検討する研究委員会では、こうした制度の検討の他、各学科の研究活動について情報を共有し、学部の研究活動の活性化を図っている。研究委員会における学部の研究活動の情報は、各学科所属の委員が学科会議において報告し、周知している。 ② 総合数理学部所属教員の科研費の採択について、2016年度4月現在、26件が採択されている。うち16件が継続、10件が新規である。新規課題への申請は19件あり、採択率は52.63%であった。新規課題への申請数応募数は2014年度17件、2015年度26件、2016年度19件である。 ③ 学科を越えた研究活動促進のため、理科設備費の中にプロジェクト研究予算枠を設け、運用内規を作成した。 ④ 総合的な業績評価として、WEBサイトにおいて教育・研究活動を適宜更新するなど、学内外に教員の教育・研究活動の情報発信を行っている。特に学外における教員の表彰等は、教授会で報告するとともに、総合数理学部のホームページに迅速に掲載し広報の充実を図っている。	競争的外部資金の獲得に積極的である。 投稿料助成の実施や研究報告書の発行など、研究促進を図る取り組みを行っている。		研究委員会・教授会において、継続して情報共有を行い、共同研究の推進及び研究活動の活性化を図る。		
<b>教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性</b>						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※ 社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※ 『授業』の改善を意図した取り組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】	① 学生相談室の活動内容の共有を目的として、2016年4月14日の教授会において、学生相談委員から2015年度の相談状況が報告された。相談内容別の対応件数や傾向、教員間の連携のあり方について理解を深めた。 ② 授業改善アンケートについて、教学委員会で議題として取り上げ、アンケート結果の理解及び活用方法、実施報告書の公表等を検討した。		全学で実施している授業評価アンケートの活用や、学部独自のFD活動の具体化に向けた検討が必要である。		教学委員会において、教員の資質向上を目的として、授業にかかわる情報交換を行うとともに、学部独自のFD活動について検討する。  教学委員会において、継続的にFD活動を行える仕組みを検討する。	

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか</b>					
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	① 教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。 ② 学位授与方針について、4年間の教育課程を通して学生が身に付けるべき知識や技能・態度を明確にした到達目標と、そのための諸要件に分けて定めている。				
<b>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか</b>					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を定めている。				
<b>(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員（教職員及び学生等）に周知され, 社会に公表されているか</b>					
a ◎公的な刊行物, WEBサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については「総合数理学部便覧」(9～12頁)で公開している。 ② 学生についても「総合数理学部便覧」(9～12頁)で公開している。 ③ 社会一般への公表は, 学部ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。WEBサイトは方針とあわせて詳細項目が公開されており, 利用者が情報を把握しやすいように作成している。				
b ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	2015年度明治大学「明治大学における学びに関するアンケート」では, 学部の3つのポリシーの認知度について, 調査学生のうち, 38%が「知っている」「だいたい知っている」と回答した。3つのポリシーを知った資料として, 「WEBサイト」が38%と設問項目の中で1番高かった。				
<b>(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</b>					
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	本学部の教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は, 学部の理念・目的に基づき, 開設前年の2012年度に策定した。毎年度初回の教授会で人材養成その他の教育研究上の目的及び3ポリシーを確認することとしている。2015年度は4月9日開催の教授会において, これを行った。これらの適切性については, 教授会の下に設置している執行部会及び教学委員会において, 教育研究活動に係わる検討事項を扱い, 検証を行える体制をとっている。なお, 2016年5月現在, より一層のカリキュラム充実を目的として, 2017年度からのカリキュラム改変を計画している。教学委員会において, 4年間のカリキュラムに対するの検証を行っており, 7月から12月にかけて教授会審議を予定している。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</b>					
<b>必要な授業科目の開設状況</b>					
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	①「社会に貢献する数理科学の創造・展開・発信」という理念のもと、現象数理学科、先端メディアサイエンス学科、ネットワークデザイン学科を組織している。数理と情報を軸に、学生の知的好奇心を高めるとともに、論理的・科学的思考力、柔軟な応用力・創造力を育むことを狙いとしてカリキュラムを編成している。 ② (記載事項なし) ③ 2016年度における総開設科目数は、合計245科目である。内訳は、総合教育科目39科目、現象数理学科の専門教育科目71科目、先端メディアサイエンス学科の専門教育科目66科目、ネットワークデザイン学科の専門教育科目69科目である。				
b ●CPに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	数理と情報についての先端的知識と技術をもって現代社会の諸問題に対処し、国際的に活躍できる人材を養成する。 学部共通の必修科目には、英語及び数学と情報の基礎科目、ゼミと卒業研究の演習・研究科目がある。英語は専門分野の内容に関する発信力を高めるため、3年次までの必修としている。演習・研究科目では、専攻テーマについて分析、体系化し、表現する力を養うことを狙いとしている。 現象数理学科の必修科目には「現象のモデリングとシミュレーション」「現象と数学」等がある。現象数理学の基本であるモデリング、シミュレーション、数理解析を総合的に学ぶことを目的としている。 先端メディアサイエンス学科の必修科目には、「先端メディアサイエンス概論」「コンテンツ・メディアプログラミング実習」「基本情報技術」等がある。情報処理の基本技能となるプログラム作成を学ぶとともに、情報技術者として必要な知識を得ることを目的としている。 ネットワークデザイン学科の必修科目には、「コンピュータ概論」「シミュレーション実習」「ネットワークデザイン実験」等がある。ネットワークを構成する要素技術を理解する力と、コンピュータを駆使してネットワークを解析、設計、制御する力を養う。				
c ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	① 開設科目における教養科目の割合は各学科平均して36%である。総合教育科目区分内に幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する科目を設置している。卒業要件単位数に占める教養系科目の必要単位数は124単位中18単位を修得すべき最低単位数としており、その割合は15%である。 ② 教養教育については、「人間に学ぶ」「社会に学ぶ」「環境に学ぶ」という観点で科目を開講し、専門に偏らない教養人としての資質を養い豊かな人間性を育むことを目的としている。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>順次性のある授業科目の体系的配置 (履修体系図やコース系統図の明示, 科目相関図, 4年間の履修モデル, 適切な科目区分など)</b>					
d ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	<p>学生への順次的・体系的な履修への配慮として、カリキュラム体系表を学部便覧(29,35,41頁)やWEBサイトにおいて学科ごとに明記している。教育課程は大きく総合教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の3つに区分され、基礎から専門へと順を追って学べるよう、授業科目を配置している。</p> <p>1年次は主に総合教育科目及び基礎教育科目に配置している科目を履修する。2年次以降の学習の中心は、学科別に設置された専門教育科目である。専門教育科目は当該区分内において科目がどのような体系性や目的をもって配置されているかを学生が理解しやすいように学科ごと「便覧」に明示している。1・2年次の学びにより十分な基礎力を身につけたうえで3年次から研究室に所属し、専門性を深めていく。3・4年次配当の専門教育科目のうち、必修は主に演習・研究科目となる。なお、基礎から専門へと段階的に知識を積み上げていく一方、総合教育科目の配当年次を1年次から4年次にわたり設定し、専門科目と並行して履修することで視野を広げることを狙いとしている。</p> <p>履修登録のエラー状況や窓口での質問内容などから、学生は履修制度の概要は理解しているように見受けられる。</p>				
<b>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</b>					
e ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	<p>① 教育課程の適切性の検証は、次年度の授業計画策定時(例年9月から実施)に、学科会議での検討結果を踏まえ、教学委員会において行っている。</p> <p>② 2015年度は、設置計画として掲げた教育課程を確実に履行するとともに、2017年度に予定しているカリキュラム変更について、検討を行った。</p> <p>③ 「大学における学びに関するアンケート」における授業科目の体系について、70%が満足、どちらかといえば満足であると回答した。また、大学で学びたいと思ったことを学んでいるかという設問について、78%が十分学んでいる、ある程度学んでいるという回答をした。</p>		2017年度にカリキュラム変更を行い、教育課程をさらに良くしていく。	教学委員会において、カリキュラム変更と併せてポリシーの変更が必要かどうかを検討する。	3つのポリシーの理解を深め、教育効果を高める。
<b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</b>					
<b>特色ある教育プログラムの内容とその効果 (当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など)</b>					
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	<p>○現象数理学科 ・全学生共通仕様のノートPCを使用し、情報科目の授業のみならず、数学の授業においてもこれを使い教育を行っている。 ・1年次の「総合数理ゼミナール」におけるプレゼンテーションや「数理リテラシー」における論理力を鍛える演習を通じて、クリティカル・シンキング能力を培っている。</p> <p>○先端メディアサイエンス学科 ・1年次の必修科目である「プログラミング演習」において、学生をチームに分けて自ら課題を設定してそれを解決するプログラム作成を行うPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)を実施している。 ・少人数ゼミナールを通じて指導教員の研究に参加することが可能であり、学会での研究発表による受賞(情報処理学会インタラクティブ2015・インタラクティブ発表賞・1年生)などの成果として表れている。</p> <p>○ネットワークデザイン学科 ・1年次配当科目として開講している「フィールドスタディ」を24名が履修した。少人数セミナーでの事前学習後に企業見学を行い、得られた知見を発表形式で共有している。</p>		ネットワークデザイン学科では、回路や無線通信等の実験を含む「ネットワークデザイン実験」を開講しているが、現状は実験を行うに十分な教室がないことから、講義教室で行っており、実験設備の移動が生じるなど、運用に支障がある。	各授業科目を安全面に留意し実施できる方策を検討する。	中野キャンパス第2期整備計画の早期実現を要望する。

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定, 短期海外交流など) b ●学部の特徴, 長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字~400字程度】	(記載事項なし)					

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>					
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	① 総合数理学部の科目は、「講義科目」を中心としているが、科目の特性に合わせて、演習及び実習形式も取り入れている。 ② 専門教育科目区分における必修科目「演習・研究科目」は全て少人数による演習形式の授業を行っている。これは、導入教育から大学生活の集大成となる卒業研究指導までを行う全学生にとっての必修科目であり、学部教育にとって重要な役割を担っている。また、基礎教育科目区分における「微積分」や「線形代数」においても、学んだ理論について理解を深めることを目的として演習形式の授業を行っている。 ③ 学部共通の必修科目である「プログラミング演習」や各学科の専門教育科目区分に配置されている科目の一部では、コンピュータを用いた実習を行う。これにより、基礎的な知識及び技術の確実な習得を図っている。				
<b>履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</b>					
b ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。（学部） 【約200字】	① 1年間の履修科目登録（卒業要件単位として履修する科目）の上限は、1年次から4年次まで再履修科目を含め、それぞれ46、49、46、42単位と定め、単位の実質化を図っている。 ② 各年次の平均履修単位数は、1年次46単位、2年次43単位、3年次36単位、4年次16単位である。 ③ 3年次への進級にあたり、2年次終了までに卒業に必要な科目から60単位以上を修得すること及び各学科の必修科目の修得条件（現象数理学科は46単位中28単位以上、先端メディアサイエンス学科は演習・研究の8単位中6単位以上、ネットワークデザイン学科は52単位中32単位以上）を定めている。				
c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】	① 履修指導ガイダンスは、授業が開始される前の学習指導週間を利用して、各学年・学科ごとに実施している。新生に対しては、履修指導の他、施設利用や学生生活全般についてのガイダンスも行っている。職員と教員がそれぞれ説明を行い、履修手続から学習内容に関する事項を含めた説明を行っている。2016年4月の2年生以上に対する履修ガイダンスは、複数回実施日を設ける、任意の出席とする、履修案内資料を詳しくするなどの変更を行った。 ② 学習支援の一つとして、数学、情報、理科の科目について、大学院生TAによる支援を行っている(2016年度は数学及び情報のみ)。2015年度はのべ254名の利用があった。学習に関する質問内容は、TAが対応について記録し、これを教学委員で共有している。 ③ 授業の出席等は個々の教員に委ねられており、学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。 ④ 「明治大学における学びに関するアンケート」設問17では、ガイダンスや履修指導の満足度に対する肯定的意見が72%であった。	ガイダンスや履修指導資料について、適宜見直しを行っている。これにより、学生のニーズに応えるとともに、事務処理の効率化を図っている。		履修登録状況及び学習指導状況を踏まえ、学生にとってよりガイダンスが有効になるよう、教学委員会及び学生支援委員会において検討する。	

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	「改善を要する点」に対する発展計画
				G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</b>					
d ●各授業科目において、学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約400字】	○TAを配置した科目 ・情報科目 授業内に教員の他に複数のTAを配置し、パソコンの操作方法などの疑問をその場で解決出来る環境を整えている。 ・微積分、線形代数などの数学関係の必修科目 複数のTAを配置し、演習問題の解法などの質問に対応することで、学生個人の理解度に合わせた授業を行っている。 ○1年次の必修科目である「総合数理概論」 数理学と情報技術についての身近な例を題材（2015年度春学期は携帯電話・スマートフォン）としたオムニバス講義を実施し、学部の教育理念を分かりやすく伝えるとともに、学部の対象とする研究領域への理解を促している。 ○3年次の必修科目である「EnglishⅢ」 自分の専門分野の内容に関してリサーチを行い、英語でその考察を行うことを目指している。春学期は個人のプレゼンテーション、秋学期はグループでのポスターセッションに焦点を絞って演習を行っている。 ○現象数理学科（実験数学教育） 3年次配当の「実験数学教育」では、数学の教員として数理探究の指導が行えるよう、少人数のグループに分かれて実検と工作を伴った授業の方法を学ぶ。2015年度は、授業のまとめとして、付属高生に対して模擬授業を行った。 ○現象数理学科（自主的な勉強会） 正課授業外で学生自らがテーマを決め、それに興味をもつ複数の学生で集まり、疑問等が生じた場合は関係する教員にアドバイスを求めることができる取り組みを行っている。 ○先端メディアサイエンス学科 学生が自ら制作したプログラミングの成果発表会を実施。全員がプレゼンテーションを行う機会を設けている。実践的な学びは、学会発表やコンテストの参加等を促す機会となっている。2015年度は9件、学会発表やコンテストで受賞をするなどの成果があった。 ○ネットワークデザイン学科 総合数理ゼミナールの課外授業として、本学セミナーハウスを利用しての合宿を行い、学科の扱う学問領域に対する理解を深める取り組みを行っている。 ○外部講師を招聘した講演会 学部の教育活動の活性化を図ることを目的として、授業外に行う講演会等にかかわる講師謝礼を予算化している。2015年度は8件の講演会が行われ、のべ201名が参加した。	学生の主体的な学習が、学会での受賞などの成果として表れている。		学生の主体的な学習をより促進する仕組みを検討する。	
<b>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</b>					
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	① 全学部統一様式のシラバス作成を全教員に依頼し、半期15週の枠組みにおいて各回の講義内容を個別に記載し、Oh-o!Meijiシステム上でも閲覧可能となっている。 ② シラバスは冊子として作成し、ガイダンス時に配布している他、大学ほーむページ及び「Oh-o!Meiji」システムからもオンライン閲覧できるように整えている。なお、シラバスの内容に変更がある場合には、初回授業で連絡および掲示することとしている。	シラバスについて、統一様式での作成がされており、記載事項に不備はないが、内容について、組織的な確認を行うには至っていない。		教学委員会において、シラバスの記載項目や現状生じている課題を把握し、より適切な作成方法を検討する。	シラバス及び授業について、恒常的に検証を実施し、改善に取り組む。

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
b	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	シラバスの到達目標の達成度について、授業改善アンケートの「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」の項目を通じて調査している。これらの項目についての数値は、2015年度のアンケート集計では、「思う(強)」から「思わない(強)」の5段階評価で、前期は「思う(強)32.9%」「思う(弱)26.8%」「ふつう35%」「思わない(弱)2.6%」「思わない(強)1.6%」、後期は「思う(強)33.4%」「思う(弱)28.6%」「ふつう33.4%」「思わない(弱)2.5%」「思わない(強)1.3%」という結果であった。これらの数値から、シラバスに基づいた授業展開がなされていることが伺える。				
c	●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	① シラバスの記載内容について、現状は、教学委員会で授業計画を検討した後、学科会議で方針等を共有し、記載については教員個人が行っている。 ② 教学委員会では、授業改善アンケートの内容の活用方法についての検討を行った。 ③ 「大学における学びに関するアンケート」の「1週間の授業外学習時間」の設問に対して、1時間未満が12%、1時間～5時間程度が64%、6時間以上が18%であり、傾向はあるものの、学生によってかける時間に差があった。また、「科目の予習・復習を行う時」にシラバスを参照する学生は36%であり、科目の予習・復習は授業内及びOh-o! Meijiポータルを利用して伝えている教員が多い。この点から、シラバスを通じた事前・事後学習の指示は不明瞭であると言える。また、多くの学生が、履修科目の選択及び成績評価方法の確認を目的としてシラバスを参考に行っていることが伺える。				
<b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</b>						
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧(26頁)に明記している。 ② 成績分布に関しては、 1年生の学部の平均GPA: 2.76 現象数理学科2.55 先端メディアサイエンス学科2.93 ネットワークデザイン学科2.75 2年生は学部平均GPA: 2.30 現象数理学科2.07 先端メディアサイエンス学科2.57 ネットワークデザイン学科2.20 3年生は学部平均GPA: 2.54 現象数理学科2.37 先端メディアサイエンス学科2.64 ネットワークデザイン学科2.61 となっており、科目や学科間のばらつきについては、組織的な確認を行うには至っていない。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○数学、理科及び情報の科目 学習支援を行うTAを配置し、質問対応を行っている。また、質問内容や対応については、TAが記録を作成し、これを教学委員会で共有している。	カリキュラムについて、単位の修得状況や教員ごとの担当科目における学生の理解度や進捗状況を学科会議及び教学委員会で共有し、カリキュラム変更の検討材料としている。なお、英語科目については、学生のTOEIC®スコアも参考にしている。これらのことから、教育成果の検証の機会は設けられており、適切に機能しているといえる。	教育課程や教育内容・方法の改善について、授業アンケートの活用は行っているが、組織的な検証や、研修・研究の実施には至っていない。	検証結果に基づき、教育効果を高めるカリキュラム改善を行うとともに、恒常的に検証を行う。	教学委委員会において、授業アンケートの活用及び学部が求めるFD活動を具体化し、必要に応じて教育開発・支援センターとの連携を図る。
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	○授業改善アンケート 教学委員会において、教育開発・支援センターが行う授業改善アンケートの活用方法を検討した。2015年度は具体的な活用方法を決定するには至っていないが、教員に対する講演会の実施や学生へのアンケート結果の公開について、意見交換がなされた。 <2015年度アンケート実績> 春学期実施率27.6% (開設コマ数272, 実施コマ数75) 秋学期実施率27.5% (開設コマ数247, 実施コマ数68)				
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育内容・方法等の改善検討は、学部教授会の下で、教学委員会(教務主任2名、一般教育主任1名、各学科の教学委員各2名の構成)を常設委員会として設け、教務全般の問題を検討する場としている。本委員会のメンバー及び権限・活動については、本学部教授会にて承認している。また、学部内委員として教学委員を各学科2名選出し、各学科の教学関係の調整に係る事項を担当している。 ② 2015年度は8回の委員会を開催し、2017年度施行予定の新カリキュラムについて、科目区分や設置科目の見直しを行い、卒業要件等を検討した。 ③ 「明治大学における学びに関するアンケート」では、授業形態・方法の満足度を調査しており、総合数理学部は、少人数によるゼミナールや演習に対する肯定的意見が90%と高く、次いで教室での講義が80%であった。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>					
b ●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約400字】	本学部は、2013年度に開設した学部であるため、卒業生を輩出しておらず、学位授与を行っていない。少人数で教員の専攻分野に基づき学習を行うゼミナール及び4年間の学習成果を卒業研究としてまとめるための研究科目（現象数理研究、先端メディア研究、ネットワークデザイン研究）を必修科目に配置している。				
c ●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】	毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて、学生の授業に対する達成度を2つの調査項目から図っている。「この授業で新しい知識や考え方を得ることができたか」の設問について、2015年度の調査では、思う（強）、思う（弱）、ふつうと回答した割合が、春学期は94.5%、秋学期は95.8%であった。また、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」の設問について、S・A・Bと回答した割合が、春学期は91.4%、秋学期は94.6%であった。これらのことから主体的に授業に臨み、シラバスに定める到達目標を達成していることが見て取れる。				
	「明治大学における学びに関するアンケート」では、学習成果の自己評価を調査しており、「入学して、自分自身が成長したか」の項目について、成長または少し成長した、の割合が約80%であり、大学生活を通して成長を自覚している学生が一定数いることが読み取れる。なお、同アンケートの間21について、本学部のDPに定める具体的到達目標と関連する項目である「問題点を発見し、分析する力」「論理的な思考方法・能力」「専攻分野の専門知識」「プレゼンテーションの方法・能力」「新しい物事に挑戦する力」が身についたかという設問に対しては、肯定的意見が80%以上であった。				
<b>(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか</b>					
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	進級及び卒業にかかわる要件について、総合数理学部便覧（16頁）に明示し、入学時に学生に配布している。 なお、3年次への進級要件は、2年次終了時までに卒業に必要な科目の中から60単位以上修得し、かつ、各学科が定める条件を満たすこととしている。また、卒業要件は、4か年以上在学し、かつ124単位以上を修得するほか、各学科が定める科目を修得することとしている。				
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	卒業の判定にあたっては、学則に定められた修業年限及び要件を満たした学生について、学部教授会で審議し、決定する。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です）</b>					
<b>「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示</b>					
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 総合数理学部の入学者の受入方針において、求める学生像として3点定め、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示している。また、一般選抜入学試験について、出題のねらいや学習方法のアドバイスをWEBサイトで公開している。 ② 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び明治大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。				
<b>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか</b>					
a ●学生の受け入れ方針と入学選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に入学選抜を行っているか） 【約800字】	入学者の受け入れ方針に基づき、入学試験では、学力試験を課す一般入試（一般選抜、全学部統一、大学入試センター試験利用入試前期及び後期）、特別入試（自己推薦、スポーツ）及び推薦入試（指定校、付属校）を実施し、多様な受験機会を設けている。また、求める学生像は、各試験形態ごとに明示している。また、外国人留学生入学試験及び国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）との協定による入学試験を導入し、2017年度から受け入れすることを決定した。				
<b>(3) 適切な定員を設定し、入学を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</b>					
<b>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</b>					
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。 ◎学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である（学士課程）。 【約200字】	① 総合数理学部は2013年に開設したため、4年間の入学定員に対する入学者数比率の数値を示す。学部平均は1.21であり、各学科の平均比率について、現象数理学科は1.24、先端メディアサイエンス学科は1.27、ネットワークデザイン学科は1.10と比率が高い。 ② 2016年度の収容定員は4学年で1,040名、在籍学生数は1,243名であり、学部の収容定員に対する在籍学生数比率は1.20である。また、各学科については、現象数理学科は1.22、先端メディアサイエンス学科は1.26、ネットワークデザイン学科は1.10であった。 学部及び現象数理学科、先端メディアサイエンス学科において、収容定員に対する在籍学生数の比率及び入学定員に対する入学者数比率がいずれも高く、改善を要する。		学部及び現象数理学科、先端メディアサイエンス学科の定員超過率について、是正が必要である。学部開設の2013年度入試において定員が超過した。その後、歩留まりデータの分析等を行い、2年間かけて適正化をはかったが、2016年度は超過する結果となった。これについて、入学者数の適正化を図るとともに合否判定会議担当者等を中心に、データの分析及び志願者動向について検証する。	過年度の歩留まりデータ及び志願者動向を検証のうえ、合格者数を精査の上で決定し、超過率の改善を図る。	年度によって過度な偏りが生じないように、計画的に超過率の改善を図る。
<b>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</b>					
b ◎現状と対応状況 【約200字】	入学定員に対する入学者数の比率及び収容定員に対する在籍学生数の比率の超過について、2014年度以降、改善傾向にあったが、2016年度は超過する結果となった。2016年度入試は、これまでの歩留まりデータを基に入学者数を精査して決定したが、入学志願者動向の変化など、これまでになかった要因も加わり、定員を超過したと考えられる。学習環境に影響はなく、特別な対応は行っていない。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

<b>点検・評価項目</b> <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。                      ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	<b>現状の説明</b>	<b>評価</b>		<b>発展計画</b>		
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	入試制度及び実施に関する事項は、「入試委員会」において検討し、教授会に諮っている。2016年度は6回の委員会を開催し、志願状況の推移を鑑みて、入試形態別募集人員や特別入試要項の検討を行った。入学者の追跡調査については、組織としてはこれを行っていない。 昨年度からの変更点としては、自己推薦入学試験の出願資格変更、外国人留学生入学試験及び難民入試の導入決定が挙げられる。現象数理学科の自己推薦入試においては、求める学生像とのマッチングをよりの確に行うために、出願資格及びエントリーシートテーマの見直しを行った。 入学者受入れ方針は、教職員間で改めて共有することを目的として、4月14日開催の教授会において、確認を行った。 なお、「明治大学における学びに関するアンケート」では、入学者の志望度を調査しており、第三志望以下が約38%、志望学部・学科への入学率は84%であった。		新規導入を決定した外国人留学生入学試験及び難民入試について、入学後のカリキュラムと連動した選抜方法を確立する必要がある。 完成年度を迎えることから、入学試験制度の変更の必要性について検討する必要がある。		これまでの入試データ等を元に、入試委員会において、入試制度の変更の必要性を検討する。2016年度は全体の方向性を示すとともにスケジュールを明らかにする。 外国人留学生受け入れに当たり、カリキュラムと連動して試験制度の詳細を決定する。	入試委員会において決定した全体の方向性及びスケジュールのもと、試験制度の詳細を決定する。また、継続的に見直す仕組みをつくる。

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか</b>					
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	常設委員会として修学支援を取り扱う学生支援委員会、学習支援を取り扱う教学委員会を設置している。 2015年度は学生支援委員会を4回、教学委員会を8回開催し、修学支援方法や学習支援について、実施方法を検討し、決定した。				
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	本学部では、全学生を対象として、新年度学習指導期間を利用した履修相談及び、学習効果を高めることを目的とした大学院生TAによる学習支援を実施している。 また、単位取得不足学生等については、機会を設けて修学指導を行っている。具体的には、取得単位数及び修得科目を根拠に基準を定め、該当する学生に対して、次学期の授業開始前までに教員が面談等を行った。 休退学者等の学籍異動については教授会にて報告し、情報を共有している。2015年度は「原級者」は28人、「休学者」は10人（前年度7人）、「退学者」は4人（前年度6人）である。なお、総合数理学部では、3年次に進級するための要件を設けており、2015年度に開設以降初めて制度が運用された。 本学部は、ゼミナールや研究科目が全学科で1～4年生まで14単位以上必修科目として配置されており、修学支援、学生支援の取り組みについて担当教員が学生からの意見抽出を行える機会が多いと言える。 また、特別入学試験の合格者に対して、入学後の学習がスムーズに進むように、合格から入学までの期間、数学及び英語の課題を課している。受講者に行ったアンケートからは、習慣的に学習に取り組むことができるようになった等の感想が得られている。	単位取得不足学生への修学指導を行ったことにより、対象学生の修学状況に改善がみられた。また、教員が直接指導することで、学科内における修学状況や問題の把握がスムーズに行える。 オリエンテーション行事の実施は学修意欲の向上維持や、学生間、教員との親睦を深めることができるなどの点において有効な取組である。	継続して修学指導及びオリエンテーション行事を実施していく。オリエンテーション行事については、学生のニーズを把握しながら運営方法の改善を図る。		
	障がいのある学生に対する修学支援制度については、全学の取り組みを適用している。				
	外国人留学生入学試験は2017年度から導入されるため、対応は行っていない。				
	修学指導において面談を実施した学生の修学状況を各学科で共有するとともに、修学指導方針の確認を学生支援委員会内で行うことで、学生支援の適切性を確認している。 オリエンテーション行事として、1年生と学科教員の懇談会を学食を利用して学科別に開催している。ネットワークデザイン学科は5月に清里セミナーハウスでの合宿も行っている。				
<b>(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。</b>					
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	総合数理学部では、就職キャリア委員会を常設委員会として設置している。2015年度は6回にわたり委員会を開催し、学生の進路動向を確認しながら進路支援方針を策定した。就職キャリア委員会における審議内容は、教授会において報告することで、教員間で共有を図っている。なお、本学部は2017年3月に初めての卒業生を輩出することとなる。				

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画			
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	<p>キャリア支援活動の方針や意思決定は、就職キャリア委員会が中心となり学部として行う一方で、実施については、全学組織の就職キャリア支援センターと連携してこれを行っている。2015年度は、一期生の本格的な就職活動の開始に向けて支援行事や学校推薦等制度にかかわる手続について検討を行った他、企業向けリーフレットを作成し、学部の教育研究について周知することにも努めた。</p> <p>就職支援活動について、1・2年生に対しては4月に実施した各学年のガイダンスで、大学生生活とキャリア形成についての説明や正課科目であるキャリア支援講座の説明を行った。3年生に対しては、4月の学科ガイダンス時に大学が行うキャリア支援行事について案内した他、就職活動のスケジュールや対象企業が求めるスキルなど、学科固有の事例にも触れながら説明を行うことで、就職活動への意識の顕在化を図った。また、2月に進路ガイダンスを実施し、最新情報について説明した。</p>	<p>効果が上がっている点 F列の現状から記述</p> <p>一期生の学年進行に従いキャリア支援活動の検討を行っているが、各項目別に活動目標と活動実績を明らかにしながら進めている。</p> <p>2015年に作成した企業向けリーフレットは、11月に行われた「企業と大学との就職懇談会」に出席した475社の採用担当者に配布した。その他にも各教員が外部機関や企業担当者との会合で配布するなど、学部の教育研究活動への理解を求めの一助として、活用している。</p>	<p>改善を要する点 F列の現状から記述</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</p> <p>就職キャリア委員会を中心に、継続してガイダンスや支援行事を行うとともに、一期生の進路を把握して、学生のニーズにあった支援を検討する。</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画</p>	<p>(当年度・次年度対応) H列にあれば記述</p>	<p>(中長期的対応) H列にあれば記述</p>
	<p>キャリア支援活動については、総合教育科目である「学部間共通総合講座(産学連携型アカデミック・インターンシップ)」の科目コーディネーターを就職キャリア委員が務め、ガイダンス等を通じて履修を促している。それ以外にも、「コンテンツ・エンタテインメント産業論」や「フィールドスタディ」、「ネットワークデザイン特別講義A」等、実務家経験を有する教員による授業や企業見学を含む授業を設置し、職業観の涵養を図っている。</p> <p>また、正課外の取り組みとして、外部講師を招聘した講演会等を行っているが、本学OB等による就職活動及びキャリアについての講演が2015年度は7回行われ、のべ136名が参加した。</p>	<p>効果が上がっている点 F列の現状から記述</p>	<p>改善を要する点 F列の現状から記述</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画</p>	<p>(当年度・次年度対応) H列にあれば記述</p>	<p>(中長期的対応) H列にあれば記述</p>
	<p>「明治大学における学びに関するアンケート」問28及び29において、進みたい方向を決めている割合、さらには行動している割合は、それぞれ58%、62%である。行動の具体例としては、希望する進路に備えた自習が28%と最も高かった。</p>	<p>効果が上がっている点 F列の現状から記述</p>	<p>改善を要する点 F列の現状から記述</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画</p>	<p>(当年度・次年度対応) H列にあれば記述</p>	<p>(中長期的対応) H列にあれば記述</p>

# 2015年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

## 基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	総合数理学部における自己点検・評価は、学部内に設置された自己点検・自己評価委員会によって行われている。学部長、教務主任の他、学科長、各学科の委員の計8名によって構成している。メンバーには、教務主任の他、各学科の学科長が参画することで、評価結果を学部・学科教育の改善に活かしやすい体制を構築している。なお、自己点検・評価報告書の具体的記述については、点検・評価項目に関係の深い学内委員会委員長とも連携し、これを作成している。 2015年度は「2014年度総合数理学部自己点検・評価報告書」を作成した。報告書は2015年10月8日開催の教授会審議に付し、その後全学の手続きを経て、明治大学ホームページで公開している。					
<b>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</b>						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること	総合数理学部の内部質保証の基本方針は、「自己点検・自己評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果を学部長に報告するものとしている。		内部質保証の方針について、明文化し、組織として合意したものを作成していない。 自己点検・評価報告書の評価結果を活かして改善を進める仕組みが明確ではない。		自己点検・自己評価委員会において、内部質保証の基本方針を改めて議論する。評価結果を有効に活かすために、学部内のPCDAサイクルを見直し、明確にする。	継続して内部質保証システムを適切に機能させる。
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	2014年度の報告書では、「完成年度を迎えるにあたっての課題の把握」「大学院との接続を踏まえた将来構想計画」「教員組織の整備」について、取り組みが必要であるとのことになった。 「完成年度を迎えるにあたっての課題の把握」について、2015年度は、教学委員会における2017年度カリキュラムの策定を通じて、現行カリキュラムの改善点を洗い出した。また、課題の一つである一期生の進路支援について、就職キャリア支援行事の実施や企業へのPRを行った。 「大学院との接続を踏まえた将来構想計画」について、2017年度以降の執行部編成等をはじめとして、将来構想委員会において検討を行っている。 「教員組織の整備」について、特任教員及び客員教員の任用を行うとともに、助手、助教の任用について要望をまとめることとした。					
●学外者の意見を取り入れていること	学外者の意見の取り入れについて、外部の方の意見を聴取し検討する仕組みは設けていない。					